

# 韓国へ試験的初輸出

## 採算の検証が必要に

# RPFの海外利用へ

### 三光



RPFの積み込み

廃棄物の総合リサイクル事業で実績を重ねる三光(鳥取県境港市、三輪陽通社長)は、古紙や廃

ブラを原料とした固形燃料(RPF)を韓国のセメントメーカーに試験的に輸出した。輸出量は、40

トン

にコンテナ5本分の約100ト。日本国内から初めての輸出で、韓国も初輸入の取り組みとなる。

同社のRPFは、JIS規格として認定されており、主に近隣の製紙メーカーに納入している。RPF製造工程で生じる規格外のC品でも、品質が一定であることが韓国サイドにとって魅力となり、RPFの輸出入が実現した。

今回の試験(トライ

アル)輸出は、鳥取県の補助もありRPFの輸出許可を取得できた。同社が輸出事業を進める中で、RPFは輸出禁止品目であることが判明し、打開策を検討してきた結果、韓国からは廃ブラや金属スクラップ同様「廃棄物由来の有価物」として輸入ができる可能性を見いだし、日本の税関では「その他ブラ製品」(貿易コード391590900)で了解を得て、環境省で「事

前相談」を開始した。韓国の環境省に対して「廃棄物由来の固形燃料」として貿易を申告し、7月に韓国サイドから許可が下りた。8月に通関検査から輸出許可証交付となり、試験輸出となった。

同社の三輪社長は「日本のRPFの品質は優れているとの評価を受けたが、韓国でのRPF価格は石炭の半額以下で、採算面で厳しい。従って、品質と量の確保で、交渉を優位に進めて、採算がとれる事業に発展させた」こと、増産と国内

を